

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	広島大学	整理番号	E02
プログラム名称	放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム		
プログラム責任者	岡本 哲治	プログラムコーディネーター	神谷 研二

(評価決定後公表)

(総括評価)

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、放射線災害復興を推進するための幅広い知識とグローバル性を兼ね備えたリーダーを養成する学位プログラムの確立のために、放射能環境保全、放射能社会復興、放射線災害医療の3コースについて、国内外の多くの機関との連携のもとに専門分野の枠を超えた学生に対する指導体制を整え、国際力、マネジメント力、学際力を養成している。また、分野横断的な教育として、短期・長期フィールドワークを科目履修として単位化するなどカリキュラムの整備を着実に進めていることは評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長および活躍の実現性については、IAEA（国際原子力機関）をはじめとした国際機関との連携、民間企業へのインターンシップ、福島周辺被災地でのフィールドワークなど、学生の着実な成長と活躍のための実践的なプログラムが整備されていると判断できる。キャリアパス像をさらに明確にすることにより、今後の活躍が期待される。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、学長を中心に大学全体として改革理念を共有する形でリーディングプログラム機構が設置され、全研究科が参加していることは評価できる。一方、多様性に富んだ学生を一定のカリキュラムの下でマネジメントするのは困難を伴うことが多いが、優れたマネジメント法を導入して、多様性がプラス効果に転化する道を積極的に探索する必要がある。なお、懸念されていたメンターの設置や英語での講義比率については着実に改善が進んでいる。

優秀な学生の獲得については、本プログラムでは特に海外からの留学生の比率が高く、優秀な留学生の存在が、日本人学生の語学面、あるいは大きな視野を身に付けさせる形でグローバル人材としての成長に貢献しており、多様なバックグラウンドを持つ日本人学生が世界各国からの留学生と切磋琢磨する機会を得て学んでいる点は評価できる。しかし、放射線災害医療コースでは海外からの医師が留学生として在籍し、学術面でも高い成果をあげつつあるが、我が国の医学部出身の学生の獲得が課題であり、医師が在籍する医歯薬保健学研究科の学位認定制度との調整、長期履修制度を活用した社会人医師の受入れなど今後一層の努力が必要である。

世界に通用する確かな質保証システムについては、Qualifying Examinationを理解度、達成度などを含む筆記試験、面接の両面から実施し、カリキュラムマップ、ルーブリックの作成などの工夫がなされていることは評価できる。

事業の定着・発展については、このプログラムが世界的に極めて重要な課題解決のた

めのプログラムであるとの認識から、広島大学や周辺関係機関に閉じることなく、日本の産官学の力を結集し、日本発で世界標準のリーダー育成プログラムへと成長することが期待される。そのために、IAEA や WHO（世界保健機関）などの国際機関と協力し、世界に通用する学位プログラムに発展させ、正式な学位授与となることが望まれる。さらに今後は修了者のフォローアップやグローバルネットワーク構築なども重要である。